



2012. 3. 18  
No.44



結  
yui

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-857-6978

<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>



## 大震災から1年—憲法から震災を考える

東日本大震災と福島第1原発事故から1年。津波による多大な犠牲と原発事故の痛苦を繰り返さないという被災者の決意、それは戦後、不戦と核兵器廃絶を憲法9条に託した日本国民の痛苦と同じ重みを感じます。今号では原発事故からの1年間のつくばでの取り組みを紹介しながら、復興と脱原発のへ道を、憲法の平和的生存権の実現と、いのちを守る9条の精神のもとに考えます。

### 3.11からのつくばでの取り組み

昨年3月11日の大震災は、ちょうど私がこの地域の市民活動に参加し始めたときに起こった。それは同世代の労働者が中心に取り組む、不安定労働者・失業者の労働と生活の向上を目指す反貧困運動であった。日本国憲法が保障する労働権(27条)や団結権(28条)、そして25条にある生存権、すなわちすべての国民が有する「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に関わる運動であった。

3月、4月はとにかく福島第一原発事故の経過の情報収集に追われていたが、これは、福島のみならず茨城の人々にとっても、間違いなく生存権に関わる問題だと考え、5月に入って「生存のための科学・茨城」という団体を立ち上げた。最初は学習会を中心にした活動を考えていたが、東京などで起こっていた脱原発デモをつくばでもやろうということになり、全国一斉行動の6月11日に「脱原発100万人アクションinつくば」を、にわか知り合いになった方々と企画した。また市民による放射能測定活動が必要だと考え、6.11集会・デモに合わせて「茨城市民放射能測定プロジェクト」を立ち上げ、測定器購入のカンパ募集活動も始めた。

その後、3.11大地震で大事故に進みかけた東海村の東海第二原発の再稼働中止と廃炉を求める署名運動が始まった。この地域の新たな脱原発グループ「脱原発ネットワーク茨城」が結成された。

他にも原発問題だけでいろいろな活動に関わり、慌ただしく1年が過ぎた。今後は、近々提起される訴訟も含め、東海第二原発の再稼働阻止と廃炉の実現のために何ができるかが大きな課題となる。また、霞ヶ浦への放射能流入問題も深刻化する恐れがある。4月8日には仲間とともに「つくば市民放射能測定所」をオープンさせる。この地域の放射能問題には、ここを拠点に取り組んで行きたい。藤田康元(「6.11脱原発100万人アクションinつくば」企画、「生存のための科学・茨城」)

### 放射能の雨が降る

福島原発事故後、放射性セシウム・ヨウ素を大量に含んだ黒い雨が茨城県南部に降り、つくば市荃崎地区は放射能に汚染された町になりました。私達は「放射線対策の会」を作り、全地域の線量測定、地域ごとの汚染マップの作成・配布活動に入りました。

地域の測定をしていると、付近の人達から「家の庭、家の中を測ってください」と言われ軒下などの線量を測ると、その数値の高さに驚きます。ガレージから軒下を通して玄関に入る家が多く、玄関内のタタキも高線量、「ここの土をさらって、小さなお子さんには特に気をつけてください」と話します。

雨水を家庭菜園に利用したり、枯葉で堆肥を作っている方も沢山いました。皆さん菜園の高線量にびっくりされていました。農家の畑の線量も高く「測定マップのチラシをもらって驚いた。市の農業課で対策を考えてもらった。土を深く掘り起こすようにすると線量がぐんと低下した」とのこと。

つくば市の初期の対応は「汚染はつくば市の全面積の10%程度で、かつ12年6月頃には汚染値は半減する」と危機意識があまりなく、「対策の会」では各所で収集したデータを持って市の放射線対策室に何度も足を運び、要請・懇談を行ないました。その結果、荃崎地区を国の「汚染状況重点調査地域」に指定させ、除染実施計画を策定することになりました。総面積約6km<sup>2</sup>、ほぼ荃崎全域です。

線量が毎時0.3μSvを越え、警報が鳴りっぱなしになる場所もまだ沢山あり、この様なところで生活することを思うと寒気がします。広域の全汚染地域を除染し、線量値をバックグラウンドレベルまで低下させることは不可能です。今後は特に小さい子の内部被曝検査、総積算被曝線量値の測定が絶対に必要です。市はこれらの要望には応じません。皆さんの声を集めて強く要請しなくては、と強く思っています。

小川矩弘(つくば市城山在住)



# 原発のない日本への第一歩は茨城県から

—東海第2原発の廃炉は地域経済の立直しによって—

小川 仙月

東海第2原発を廃炉にできる可能性が高くなってきました。既に再稼働中止と廃炉を求める署名は10万筆を超え、東海の村上村長も国に廃炉を求めています。いよいよこの時が来ました。「最後の山」を超えることができれば原発のない日本への第一歩を茨城から始めることができます。「最後の山」とは？ それは「原発を廃止した後の地域経済をどう修復するのか」という課題です。これはたいへん重要な山です。

大新聞には原発地元の記事で「原発しか仕事がない」と見出しが躍り、テレビでは原発へ働きに出る地元の方の姿を映し「依存」という言葉を使います。私は原発関連のこうした情報に接するたび、「貧しい沖縄の経済は基地に依存するしかない」という「空気」をでっち上げた大マスコミの仕業に近いものを感じます。

確かに東海を始め原発地元の経済は、ある程度原発に依存しています。しかしその依存の程度は正確に評価されているのでしょうか。私の手元に帝国データバンクが昨年6月に発表した資料があります。これは原発関連企業の数と就業者数を都道府県別にとらえた日本初の調査です。これによると、茨城県は201社（全国2位）、22,036人（4位）です。西の原発銀座・福井県は144社（5位）、4,100人（8位）です。では1位はどこか。意外にも企業数、就業者数ともに第1位は東京都で、574社、504,400人なのです。私は、依存という「空気」に流されず、こうした「実数」で議論をする姿勢が大切だと思います。

東海第2原発が廃炉となった際、東海村の地域経済をどう立て直せばいいのでしょうか。電源三法交付金をはじめ、原発マネーと手を切っても自立できる東海村を作らねばなりません。つまり「村内あるいは近隣地域にある資源を活かしたまちづくり」です。

様々な方策が考えられます。一例ですが、第6次産業という考え方があります。これは第1次産業の産物に第2次、第3次産業の付加価値をつけて商品を打ち出す考え方です（ $1 \times 2 \times 3 = 6$ ）。東海村、もしくは県北の産物にこの手法で打ち出せる産品はないのでしょうか。全県民で案を出し合い、東海村の地域経済の立て直しに一役買おうではありませんか。それがやがて日本の原発の廃炉につながる重要な一歩であり、そのことは、まさに憲法を活かすことでもあると思うからです。

（東海第2原発の再稼働中止と廃炉を求める実行委員会・賛同人）

当会では第1日曜日にアルス前にて、9日「9の日署名」を西武前で行なっています。3月には3.11「さよなら原発アクション&パレード」にて署名行動を行ないました。

## 「憲法9条の会つくば」の活動から

◆賛同人 2012年3月10日現在  
総数 864名 (市内 627名)  
◆9条署名 3月11日現在 12,729筆



### 署名行動報告

## THANK YOU カンパのご報告とお礼

前号の「結」でカンパのお願いをさせて頂いたところ、3月10日現在238,000円のカンパをお寄せ頂いています。この誌上をお借りしてご報告し、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

今年も震災復興、原発事故に関わる課題が山積みです。そのような折にも関わらず、危機管理等を口実に憲法9条を変えて、日本も軍事力を行使できるようにすべきとの動きが活発化しております。「つながり」を生かして「9条の精神」を周りの方々に広めていきましょう。今後ともご支援、ご協力よろしくお願い致します。

▼1月8日（日）に成人の日成新成人への署名を行ないました。毎年振袖の華やかさ、大きく盛られた髪型、ネイルに見とれていますが、今年も例年同様、興味深いひと時となりました。今年は署名に依じてくれる若者が多かった印象。「これからも戦争をしない日本を守るために」と話すと「戦争反対」と言いながら署名してくれました。

▼2月5日（日）定例街頭署名、2月9日（木）に9の日署名を行ないました。両日とも寒い寒い中での署名となりました。署名をして下さる方の手も震える中、参加頂いた皆さん、ご苦労様でした。

当時12歳、私は東京本所（墨田区）に、母は下の  
子供3人を連れて父の実家である茨城県石下町（現常  
総市）に縁故疎開していたため、父と2歳上の姉と3  
人で暮らしていました。父はスポーツ用品を作り、  
売る商人であり、海や山、スキーなどにもつれてい  
てもらったなど平和な家庭であり、私も水泳を趣味  
として育った。ところが戦争が激しくなり、小学6  
年生（1944年）の時学校の命令で千葉県長生郡  
笠森の旅館に学友35人とともに集団疎開をさせら  
れました。笠森は山のなかで環境は良かったが風呂  
はドラム缶か近所の農家の風呂を借りて入った。

疎開した翌年1945年（昭和20年）3月はじめ  
小学校の卒業と女学校への進学試験のため東京本所  
の家に帰された。この頃戦局は一層激しくなり、連  
日のようにアメリカの爆撃機B29が飛来し、空襲警  
報のサイレンが鳴り響き、灯火管制（電灯に黒い布  
をかぶせ、外部に明かりがもれないようにすること）  
のもと、モンペ姿の着の身着のまま、枕元には防  
空頭巾を置き、いつでも飛び出せるようにして寝る  
毎日でした。

3月9日午後4時頃警戒警報のサイレンが鳴っ  
た。いつもとちがって表へ出てみるとすでに火の手  
は各所にあがっていた。父は家を守るために残り、  
父の言いつけによって姉と二人で避難場所に指定さ  
れていた二葉小学校に急いだ。学校への道は避難す  
る人で一杯で混雑していた。小学校へ着くとすでに  
多勢の人が避難して来ていて、はじめに階段の下に  
行ったがあまり多勢いるので帰って危ないと思い、  
2階のトイレに行けば安心かと思いトイレに行っ  
た。当時としては珍しくタイル張りのトイレで、熱  
せられた顔などをタイルにつけて冷まそうとしたが  
そこも満杯、おまけにみんなが「南無妙法蓮華經、  
南無妙法蓮華經」とお経を唱和していた。その時は  
何も感じず、ただ逃げることだけを考えていたが、  
今思えば、死を覚悟した異様な雰囲気であった。



浅草言問橋炎上・狩野光男氏

次に各教室の前にあった大きな防火用水があり、  
あまりの熱さにそこに飛び込み全身を濡らし熱さに  
耐えたが、熱さは濡れた着物も乾かすほどで、今度  
はプールに逃げようと校庭に出たが、校庭も人で一  
杯行くこともできず階段へ、そこも火が噴きあがっ  
てきて防空頭巾も焼ける。顔も火傷するので3階へ、  
ここも同じ、思いきってダストシュートで一階に戻  
り逃げようと、ダストシュートの蓋を開けると下か  
らの逆風でとても降りられず、やむなく姉と二人で  
屋上へ、校舎はコンクリート作りで屋上に逃げたら  
偶然にも前の家のお兄ちゃん兄弟と一緒にになった。  
3階の屋上というのに火の粉ではなく火の塊、火の  
ついた木片などが熱風にあおられて飛んできて着て  
いるものに付着して燃えるのを手で払い、手で払い  
ながら一晩中そこで過ごし、不思議にも一命をとり  
とめることができた。朝になったら「生きている人  
は下に下りてきて下さい」と呼びかけられて下りて  
ゆくと、教室では身を寄り合わせお互いに守ろうと  
したのか教室の隅に一塊に人間が黒焦げになっ  
たり、防空壕に逃げた人は蒸し焼きになって死んでい  
た。またプールに入った人は水面から出ている体の  
一部分が焼けて浮いているなど、どこへ行っても死  
体が重なり合うように、子どもを抱いた母親はその  
ままの姿で死んでいるなど死体が累々として、この  
世のものとは思えない状況だった。

九死に一生を得て家に帰りつくと家は丸焼けてい  
たものの父も生きていることが。乾パンと水でしの  
ぎ、千住の親戚の家へ歩いていった。

\*記録（「東京大空襲の記録」早乙女勝元編著 新潮文  
庫）によれば、米側発表で当日飛来した  
29は325機、このうち279機が合計1700  
トンからの高性能焼夷弾が投下された  
のでした。過密都市下町を無差別爆撃  
によって非戦闘員10万人—こんなに多  
くなった要因の一つに、小学校の卒業  
と進学のため、帰っていた児童がいた  
ことも—が犠牲となりました。戦争の恐ろしさ、悲惨さ  
は言葉にも文章にも表すことができません。再び、この  
ようなことが起こらないよう願うばかりです。（茅野記）



**\*聞き手と文章：故茅野徳治**

茅野徳治さんは甲状腺癌（未分化癌）を患い、病に伏し  
て3ヶ月後の2011年2月16日、80歳で永眠されました。  
生前はご夫婦揃って週1回程度「宅老所（ひばり）」を  
利用されており、同じご利用者の工藤道子さんの体験を  
お聞きになられていたのです。難聴だった茅野さん、さ  
ぞご苦労されての聞き取りであったと思います。（K.F）

## 研学9条の会講演会

### 放射能汚染への対応を考える



筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会の主催による増田義信氏の講演会が2月19日大穂交流センターで行われた。福島原子力発電所の事故は14メートルの津波の来襲によって全電源が喪失したことで起こったが、このような大きな津波は予想されていたことであり、また過酷事故を想定した訓練をしていなかったことによる「人災」であると話された。放射能汚染は奥羽山脈、関東山地などの高地にせき止められる形で広がり、放射能の総量は広島原爆の約20発分にもなった。放射線は目に見えないが、「おそれて、こわがらず」を基本にできるだけ浴びないようにすることである。放射能の土壌汚染・除染、がんの発生率、使用済の核燃料処理、事故後の見通しなどについてスリーマイル島原発事故、チェルノブイリ原発事故と比較して詳しく説明された。福島原発の今後の見通しは冷却水で定常冷却にし、燃料棒を処理するまでにかなりの時間を必要とする。現在の原発は未完成である。原発に依存しない自然エネルギーの活用、火力発電をコンバインドサイクル発電などの省エネ発電にすることにより炭酸ガスの排出も削減できる。沢山の資料を使って討論を含めて3時間余、わかりやすく講演して頂きました。(文責 武田潔)

### ウォッチ！改憲の動き (2011年11月～2012年2月)

野田内閣は10月に衆参それぞれの憲法審査会の委員選出を強行、21日に第1回憲法審査会を開き会長を決定した。12月末に武器輸出3原則の緩和を決め、2月にはPKO参加の自衛隊の武器使用基準を緩和するため、PKO協力法を改正する方針を明らかにした。自民党も2月末に「憲法改正原案」を発表。「大阪維新の会」と連動しながら、平和・民主・人権の原則を否定し、戦争をする国づくりを進める動きである。  
**2011年12月27日** 政府、武器輸出3原則の緩和を決定。  
**2012年01月18日** 民主党政治改革推進本部総会、衆議院定数80削減法案を通常国会に提出する決定。  
**02月28日** 自民党「憲法改正推進本部」が憲法改正原案を提示。2005年の草案が土台。  
**02月29日** 政府、PKOに参加する自衛隊の武器使用基準を緩和の方針。

### ◇さよなら原発4.1大集会 in いばらき

日時：4月1日(日) 11:00～  
 場所：笠松運動公園  
 交流テント&つながるステージ:子どもたちを放射能から守ろう、子育て中のお母さんのママカフェ、東海第2原発廃炉・原発ゼロへ、模擬店  
 いばらき大集会：茨城・福島からの発信、リレートーク

## ひとのあかし

清流出版  
 若松丈太郎 詩  
 アーサー・ピナード 英訳  
 斉藤さだむ 写真



ひとは作物を栽培することを覚えた  
 ひとは生きものを飼育することを覚えた  
 作物の栽培も  
 生きものの飼育も  
 ひとがひとであることのあかしだ  
 あるとき以後  
 耕作地があるのに作物を栽培できない  
 家畜がいるのに飼育できない  
 魚がいるのに漁ができない  
 ということになったら  
 ひとはひとであるとは言えない  
 のではないか (2011年5月)

2011年にこの詩を詠んだ若松丈太郎さんは福島県原町在住の詩人です。震災後この詩人の存在を知ったアーサー・ピナードさんは「予言だ」と語りました。そしてこの「ひとのあかし」を含む4編の詩の英訳作業にとりかかり、2012年1月末に完成したのが本書です。またこの本には全編に福島の現地の写真が掲載されており、詩と写真のコラボレーションが効果的です。写真撮影はピナードさんの友人でつくば在住のカメラマン、斉藤さだむさん(賛同人)です。6月にはつくば市内でピナードさんの詩の朗読会も予定されています。東京新聞・朝日新聞・AERA・文化放送などでも紹介された本書をお勧めします。(穂積)

### 行動予定



- 4月1日(日) 定例署名 12:00～ アルス前  
 9日(火) 9の日署名 12:00～ 西武前  
 20日(金) 事務局会議 19:00～ 松代交流センター  
 5月1日(火) メーデー署名 中央公園 (予定)  
 6日(日) 定例署名 12:00～ アルス前  
 9日(水) 9の日署名 12:30～ 西武前  
 20日(日) 定例世話人会 10:00～ 松代交流センター

## インフォメーション

連絡先：実行委員会 Te1029-219-1031/Fax029-291-1032

### ◇テレジンを語る会いばらき-野村路子出版記念講演会

日時：4月7日(土) 13:30～  
 場所：アルスホール  
 講演：「フリードル先生とテレジンの子どもたち」野村路子さん

連絡先：Te1029-823-3484 (関谷)

### ◇2012年憲法フェスティバル

日時：5月3日(木・祝) 10:00～13:30  
 場所：水戸・はなみずき公園  
 代替エネルギーについて、9条の会交流会など  
 連絡先：憲法フェスティバル実行委員会  
 Te1029-231-4555 (水戸翔合同法律事務所内)